

牧野(淀川上流)探鳥会 2014年9月度

2014.9.7(第1日曜日) 9:00~14:00 日本野鳥の会大阪支部

担当 平 軍二(☎090-6901-1425) (Eメール g-hira@nifty.com)

南 茂夫、高井 常之、前田 初雄、甲田 照二、堤 潤、斎藤 健、西脇 淳浩

1. 秋の渡りのシーズン

シロチドリ・ハマシギなど水辺の鳥の秋の渡りは8月に始まっており、コサメビタキなど山野の鳥、ノビタキなど草原の鳥も9月に入ると渡り始めています。秋の渡りで最も楽しみなタカ渡りは9月中旬に始まり、ハチクマ・サシバ・ノスリと10月後半まで続きます。牧野上空にもタカが通過していると思いますが、探鳥会開催日と渡りの最盛期(9月下旬)のタイミングが合わず、あまり観察できないのが残念です。



2. 先月(14年8月)ツバメのねぐら観察会から

→

8月定例会は夏休み、代わりに夕方、対岸の鶴殿のヨシ原に集まるツバメのねぐら入り観察した。スタート前から雨でしたが、牧野周辺にお住まいの非会員が3家族など思いのほか参加者が多く、東京本部から2人の参加もあり、コースはアスファルト道で安全なこと、雨でもツバメはねぐらに集まることなどから、観察会を実施した。

雨のためか牧野上空から鶴殿へ急ぐツバメは低く飛んで見えたが、期待していた群舞のツバメは牧野に近づかず肉眼では見られなかった。しかし双眼鏡で対岸の上空を見ると、多数のツバメが群舞しているのが確認でき、初参加の人に喜んでもらうことができた。



またツバメが飛び始める前に、膨らんだつぼみの「カラスウリ」の場所を確認しておき、ツバメ観察終了後、雨の中で白いレースが広がった花を観察、花の神秘さにも感動することができた。

尚、鶴殿のヨシ原にねぐら入りするツバメの数のカウントは、高槻野鳥の会メンバーにより行われていますが、同じ日8月3日雨の中で実施されており、4万羽と昨年より多かったとの報告をいただいています。

3. 今月の鳥(ツバメの生活史)

春ツバメが日本に渡ってきて、秋に帰るまでの生活史を漫画にしてみました。繁殖巣の周辺で4ヶ月、巣作り前や巣立ち後のねぐら入りなどを含め日本にいる期間は6~7ヶ月です。この間に1~2回(1回に5卵とすると5~10卵)子育てをしています、無事に巣立つのは厳しく子育て中におきたアクシデントを見ることがよくあります。



140513 大阪谷町6丁目

4月		ツバメ来る (3月下旬~4月上旬)
5月		巣作り 年1~2回
		産卵 第1回5月 抱卵 第2回6月 約2週間
6月		ヒナの世話 3週間
7月		巣立ち 第1回6月初 第2回7月初
8月		夜、ヨシ原に集まり 集団で眠る (8~9月)
9月		南へ帰る (9月~10月)

1巣で5羽のひなが巣立ったとして日本から南へ帰るのは、2羽の親と合わせて7羽がとなりますが、このうち来年日本に戻ってくるのは前年とあまり変わらず、2羽ほどと思われます。これほど厳しい条件の中で、どうして渡り続けるのか、いつも不思議に思いながら、渡り鳥を楽しんでいます。

4. 次回 10月5日(第1日曜) 秋の渡りのノビタキが楽しむ

月日:10月5日(日) 集合:9:00 京阪牧野駅 解散:14:00 頃 京阪枚方市駅近く

牧野探鳥会の合言葉

「バードウォッチャー そこのけそこのけ 自転車が通る」

